

畑作・野菜・花き用除草剤

ゴーゴーサン乳剤・細粒剤F | 技術資料 |

 **BASF**

We create chemistry



畑作・野菜・花き用除草剤

ゴーゴーサン乳剤・細粒剤F

ゴーゴーサン乳剤、ゴーゴーサン細粒剤FはBASF社が開発したジニトロアニリン系の除草成分ペンディメタリンを有効成分とする畑作・野菜用土壌処理型除草剤です。本剤は処理後、地表面に安定した処理層を形成し、一年生イネ科雑草から一年生広葉雑草まで幅広い雑草種を長期にわたり抑えます。

1983年に乳剤30が、1986年に細粒剤Fが登録され、また2008年には乳剤30が製剤改良され、ゴーゴーサン乳剤に生まれ変わりました。その中で、麦類、陸稻、とうもろこし、ばれいしょ、にんじん、たまねぎ、ねぎ、にんにく、こんにゃくなど幅広い分野でご利用いただいております。

本資料は、ゴーゴーサン乳剤、ゴーゴーサン細粒剤Fの特性をご理解いただくため、現在までに得られた知見に基づいて作成しました。本剤の普及、指導のご参考になれば幸いです。

目次

- 特長.....3
- 成分・性状.....4
- 安全性.....5
- 作用機作.....6
- 殺草スペクトラム.....7
- 使用上の基礎知識
 - 土壌粒子、腐植含量.....8
 - 土壌中での移行性、圃場の碎土・整地.....9
 - 土壌水分、試験例、散布時の注意点.....10
- 後作物への影響.....11

主な作物の散布目安

- 麦類・小麦.....12
- たまねぎ.....13
- ねぎ.....14
- にら.....15
- にんにく.....16
- にんじん.....17
- とうもろこし・ソルガム.....18
- キャベツ.....19
- はくさい.....20
- カリフラワー.....21
- レタス・非結球レタス.....22
- こんにゃく.....23
- ばれいしょ.....24
- しょうが.....25
- さといも.....26
- アスパラガス.....27
- チューリップ.....28

細粒剤F散布.....29

試験事例.....30

登録内容

- ゴーゴーサン乳剤.....32
- ゴーゴーサン細粒剤F.....34

ゴーゴーサンの特長

特長

1. イネ科・広葉雑草を同時に防除します。

雑草発生前の土壌処理により、ノビエ、メシバ、エノコログサなどの一年生イネ科雑草からタデ科、スベリヒユ、ハコベなどの一年生広葉雑草や、カツリグサ科まで幅広い雑草に対し、安定した効果を発揮します。

※キク科雑草やツユクサには効果が劣ります。

2. 長い間効果が持続します。

土壌粒子に強く吸着され、水に溶けにくく、土壌移行性が少ないため、土壌表面に安定した処理層を形成し、45～60日にわたって長期間雑草の発生を抑制します。

3. 野菜から畑作物・花き類まで多くの作物に使用できます。

一年生イネ科雑草



ノビエ



メシバ



オヒシバ



エノコログサ



スズメノカタビラ
(一年生または越年生)

一年生広葉/カツリグサ科雑草



カツリグサ



オオイヌタデ



イヌタデ



タニソバ



スベリヒユ



ハコベ
(一年生または越年生)



イヌビユ



ナスナ
(一年生または越年生)



オオイヌノフグリ
(一年生または越年生)



シロザ

※キク科雑草(タンポポ等)、ツユクサには効果が劣ります。
また、ハマスゲ、スズメノヒユ、ヨモギ等の多年生雑草には効果がありません。

成分・性状

ゴーゴーサンの有効成分であるペンディメタリンは、ジニトロアニリン系化合物に属します。ゴーゴーサンの蒸気圧が比較的 low、水溶解度も小さいため、空気中への揮散が少なく、土壌中の移行

性は極めて少ない剤です。このため薬剤処理後、安定した処理層が地表面に形成され、長期間の除草効果を発揮します。

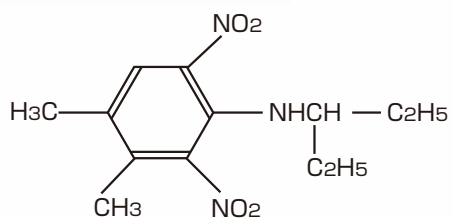
商品名・登録番号

ゴーゴーサン乳剤 : 第22176号

ゴーゴーサン細粒剤F : 第16458号

一般名

ペンディメタリン



有効成分含有量

ゴーゴーサン乳剤 : ペンディメタリン…30.0%

ゴーゴーサン細粒剤F : ペンディメタリン…2.0%

原体の物理的・化学的性状

性状 : 暗褐色粉末個体

融点 : 57.7~58.0℃

蒸気圧 : 1.25×10^{-3} Pa (25℃)

安定性 : 酸およびアルカリに安定

水溶解性 : 0.23 ppm (20℃)

製剤の性状

乳剤 : 暗褐色澄明可乳化油状液体

細粒剤F : 黄色細粒および微粒 (粒径 180~710 μm)

安全性

人畜毒性

乳剤、細粒剤Fとも人畜毒性は低く、普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)です。

試験の種類	動物種	乳剤(mg/kg)	細粒剤F(mg/kg)
急性経口毒性	ラット(♀)LD ₅₀	>2000	>5000
	ラット(♂)LD ₅₀	—	>5000
	マウス(♀♂)LD ₅₀	—	>5000
急性経皮毒性	ラット(♀♂)LD ₅₀	>2000	>2000
皮膚刺激性	ウサギ(♂)LD ₅₀	軽度刺激性あり	刺激性なし
眼刺激性	ウサギ(♂)LD ₅₀	軽度刺激性あり (軽度洗眼効果あり)	刺激性なし
皮膚感作性	モルモット(♀)	感作性なし	感作性なし

いずれも製剤としての値

魚毒性

魚類など	乳剤(ppm)	細粒剤F(ppm)	
コイ LC ₅₀ (96hr)	1.7	11	
オオミジンコ EC ₅₀ (48hr)	1.3	17	
緑藻	EbC ₅₀ (0~72hr)	0.063	1.4
	ErC ₅₀ (0~72hr)	0.19	3.3

いずれも製剤としての値

有用生物に対する影響

鳥類やミツバチへの影響は少ない剤です。

動物種	原体
マガモ経口 LD ₅₀	1421mg/kg
マガモ混餌 LC ₅₀ *	10,388ppm
ミツバチ経口 LD ₅₀	>101.2 μ g/頭

*8日間混餌投与

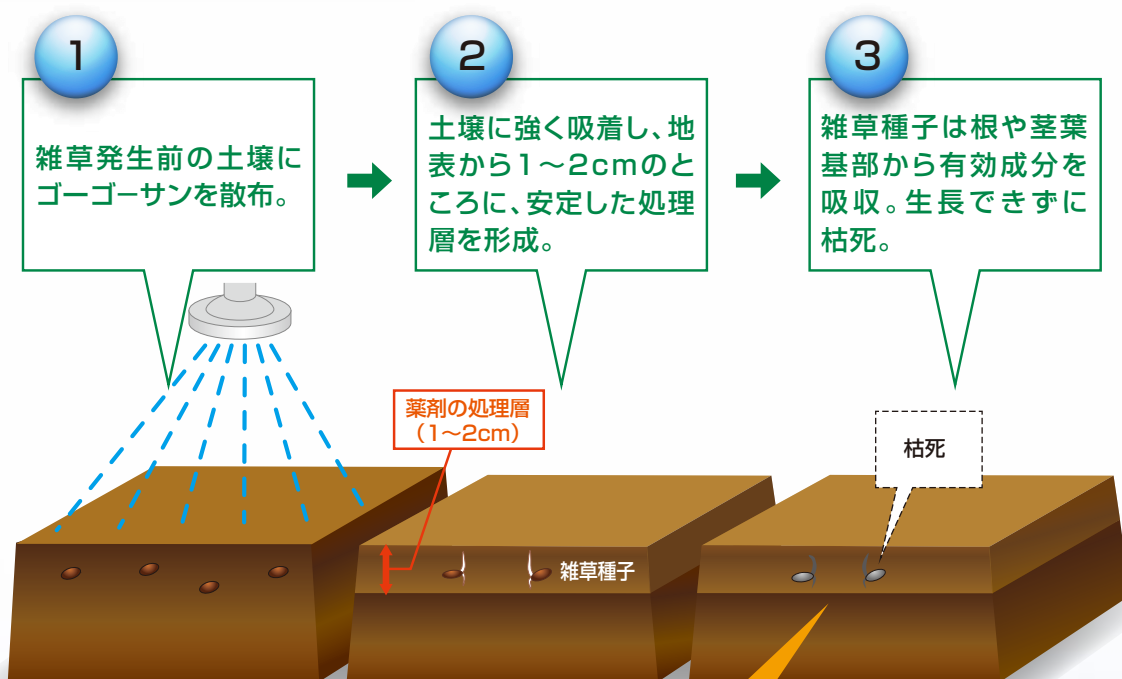
作用機作

本剤は非ホルモン吸収移行型土壌処理剤で雑草発生前の土壌処理により、地表から1~2cmのところに処理層を形成します。雑草は発芽・発根時に幼芽・幼根部からゴーゴーサンを吸収し、生長点の細胞分裂・細胞伸長が阻害されることにより、生長が著しく阻害され、枯死に至ります。

このため、処理層内に存在する雑草種子に対しては、高い活性を示しますが、処理層の下深くから発

芽する雑草や多年生雑草には効果が劣ります。幼芽・幼根部の生長点に作用することから、すでに生長している雑草にはほとんど効果を認めません。

作用性



POINT

ゴーゴーサンは土壌移行性が小さいため、作物への薬害発生の恐れは少ない剤です。

殺草スペクトラム

ゴーゴーサンは一年生イネ科および広葉雑草に高い活性を示し、広葉雑草ではタデ科、ナデシコ科、ヒユ科、アカザ科、カヤツリグサ科(一年生)、スベリヒユなどに活性があります。一般にキク科雑草およびツククサには効果が劣り、マメ科雑草やアカネ科のヤエムグラには高薬量好条件下で効果を認めます。

多年生雑草のハマスゲ、スズメノヒエ、ヨモギなどへの効果はほとんど認めません。

スペクトラム

科名	雑草名	効果
イネ科	イヌビエ(ノビエ)	◎
	メヒシバ	◎
	エノコログサ	◎
	スズメノテッポウ	◎~○
	スズメノカタビラ	◎
	カズノコグサ	◎~○
	オヒシバ	◎
	コヌカグサ(実生)	◎
	オオスズメノカタビラ(実生)	◎
カヤツリグサ科	カヤツリグサ	◎
タデ科	オオイヌタデ	◎
	イヌタデ	◎
	ハルタデ	◎
	タニソバ	◎
	エゾノギシギシ(実生)	◎
スベリヒユ科	スベリヒユ	◎
ナデシコ科	コハコベ	◎
	ミミナグサ	◎
	オランダミミナグサ	◎
	ノミノフスマ	◎
ヒユ科 (旧アカザ科)	アカザ	◎
	シロザ	◎
ヒユ科	アオゲイトウ	◎
	イヌビユ	◎
ナス科	イヌホオズキ	◎

科名	雑草名	効果
シソ科	ホトケノザ	◎
	ナギナタコウジュ	◎
アカネ科	ヤエムグラ	△
ゴマノハグサ科	オオイヌノフグリ	◎
トウダイグサ科	エノキグサ	○
ザクロソウ科	ザクロソウ	◎
	ナズナ	○
アブラナ科	タネツケバナ	◎
	スカシタゴボウ	△
	イヌガラシ	◎
キク科	ノゲシ	○
	ハキダメギク	△
	ハルジオン	○
	ノボロギク	△
	トキンソウ	○
	イヌカミツレ	△
イチビ科	イチビ	○~△*
マメ科	カラスノエンドウ	△
	ヤハズソウ	△
ツククサ科	ツククサ	×

効果凡例

◎:極大 ○:大 △:中 ×:劣る

*イチビ:発生深度により効果差が生じます。

使用上の基礎知識

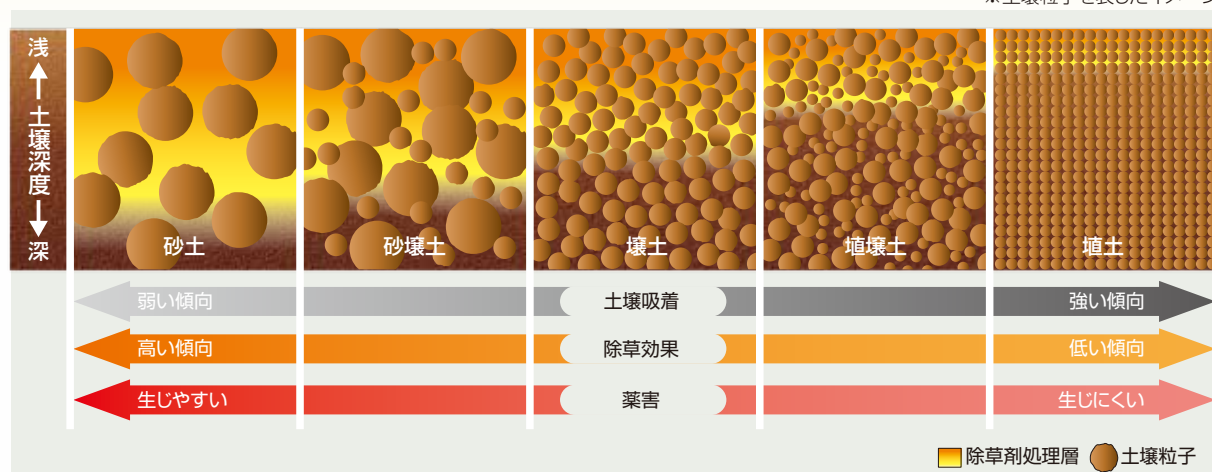
ゴーゴーサンは土壌処理剤のため、有効成分であるベンディメタリンと土壌との吸着が除草効果や薬害に影響を及ぼします。土壌条件は、土壌粒子の大きさ、腐植含量、土壌水分が関係します。

土壌粒子

土壌粒子が細かいほど土壌吸着が強くなり、ゴーゴーサンの有効成分は雑草に吸収されにくいいため、登録内で高薬量が必要です。一方粒子の粗い土壌ほど低薬量で処理してください。また、薬害は土壌吸着性の低い砂質含量が多いほど生じやすいので、

砂質土壌での使用は注意してください。砕土が不十分で大きな塊が多い圃場や整地がていねいにされていないと、ゴーゴーサンの処理層がでず、効果が不安定になります。

※土壌粒子を表したイメージ

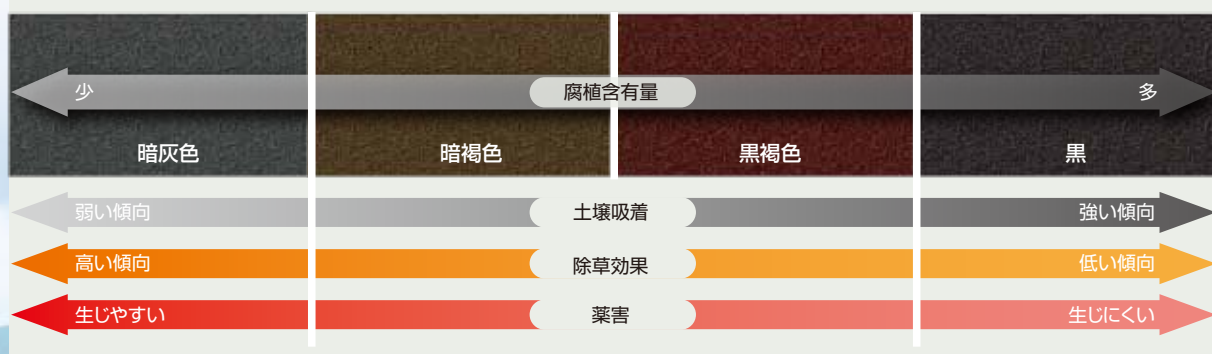


腐植含量

腐植はゴーゴーサンを強く吸着し、吸着したゴーゴーサンは雑草に吸収されにくくなり、効果低下をまねきます。従って、腐植含量の高い土壌では登録内で高薬量を、低い土壌では低薬量のゴーゴーサンを処理してください。極端に腐植含量が多い場合は除

草効果が低下する場合があります。薬害はこの逆に腐植含量が少ないほど生じやすいです。作物残渣が多い圃場や緑肥がすき込まれた圃場など過剰に有機物がある場合は、ゴーゴーサンが有機物に吸収され、効果が低下します。

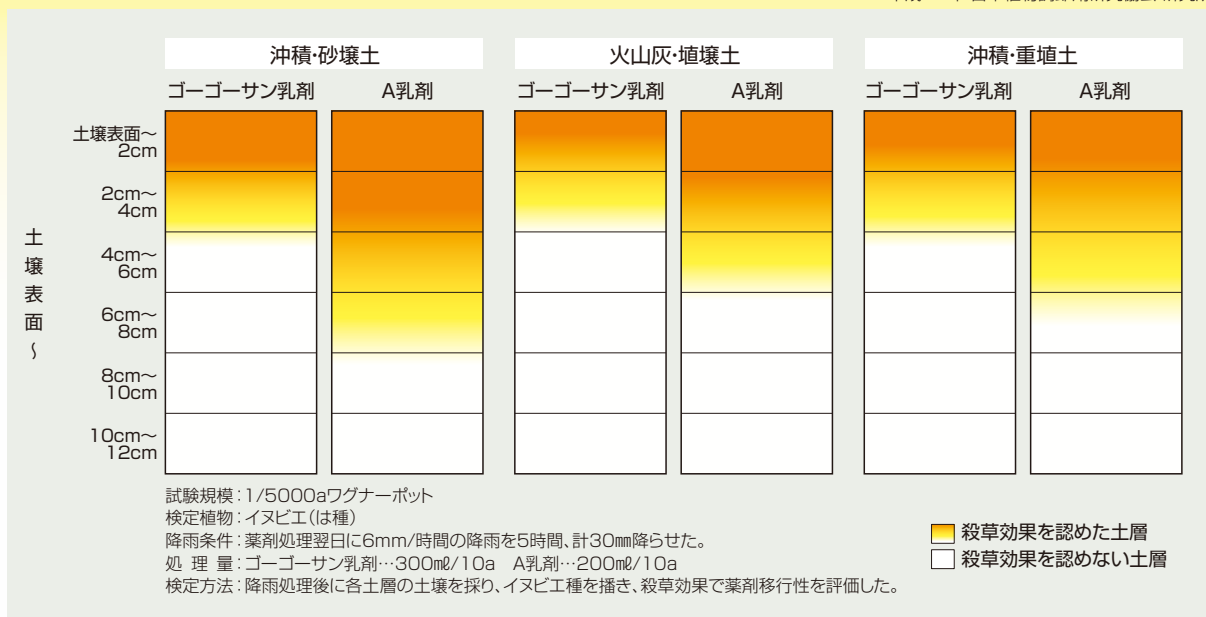
※腐植含有を表したイメージ



土壌中での移行性

ゴーゴーサンは土壌に吸着しやすいので、土壌移行性が少ない剤です。

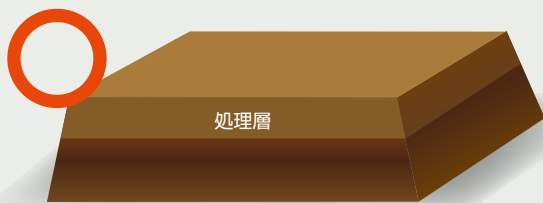
平成22年 日本植物調節剤研究協会・研究所



圃場の碎土・整地

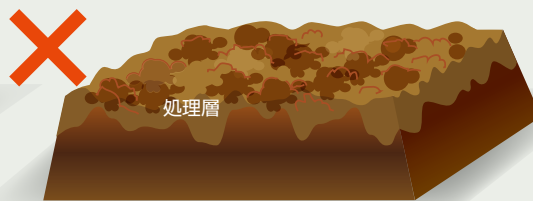
碎土・整地をていねいに行うことで、安定した除草効果を発揮します。

● 耕起や整地が十分に行われると



薬剤処理層が均一に形成され、
安定した除草効果を発揮。

● 耕起や整地が不十分な場合は



土塊の下部や側面に適切な処理層が
形成されず、除草効果が劣ることも。

使用上の基礎知識

土壌水分

ゴーゴーサンは水溶解度が小さく、空気中への揮散が少ない剤のため、通常の土壌水分では安定した除草効果を示します。

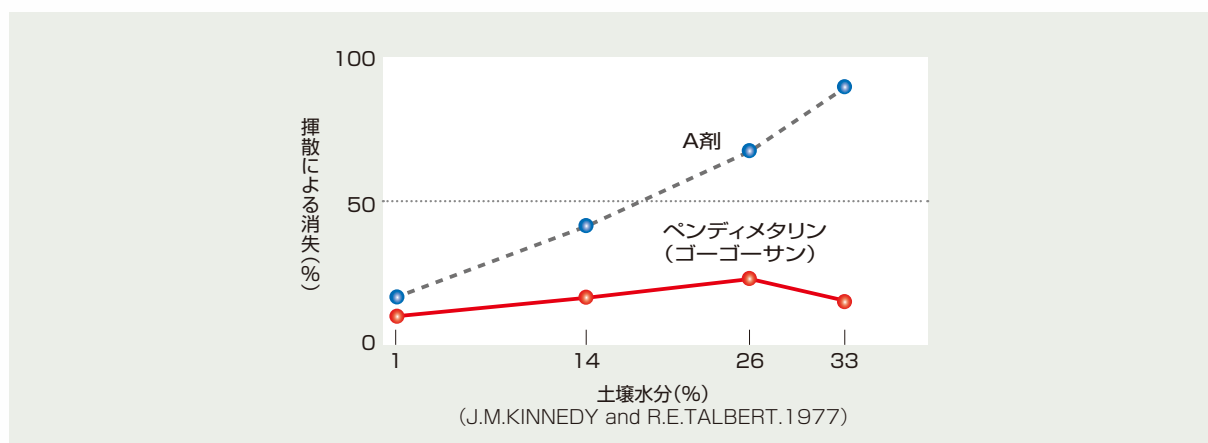
しかしながら、乾燥条件下での処理では処理層の形成が不十分となり、効果は低下します。また排水不

良畑での処理や水たまりがある状態での処理は効果の低下や薬害発生の原因になりますので、使用を避けてください。

試験例

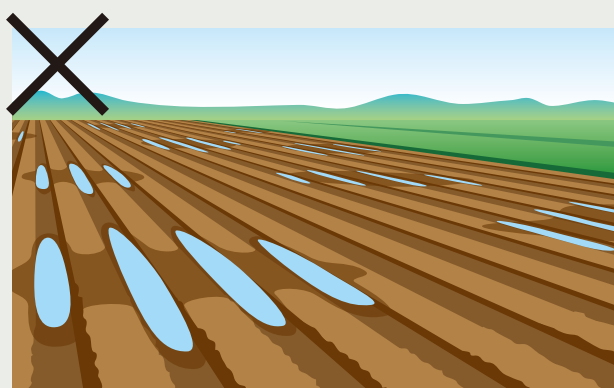
〈土壌水分条件と揮散によるロス〉

水分条件による影響は極端な乾燥は例外として、ほとんどありません。



散布時の注意点

排水不良田(畑)での処理は避けてください。効果の低下や薬害の原因になります。



土壌を手のひらで軽く握ると土壌塊ができ、また簡単に崩せるような状態が適湿です。



後作物への影響

ゴーゴーサンは処理後45～60日と比較的長い残効性を有します。作物により感受性が異なりますので、後作物への影響を考慮しつつ本剤を使用してください。

ゴーゴーサン処理後 植付け可能となるまでの期間

		処理	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月
移植作物	たまねぎ						
	キャベツ						
	レタス(大苗)						
	はくさい						
	なす						
	にんにく						
	すいか						
	きく						
	水稻						
	きゅうり						
	レタス(小苗)						
	メロン						
	てんさい※						
	は種作物	にんじん					
たまねぎ							
だいこん							
豆類							
ほうれんそう							
小麦							
とうもろこし							
ソルガム※							
てんさい※							

試験方法概略

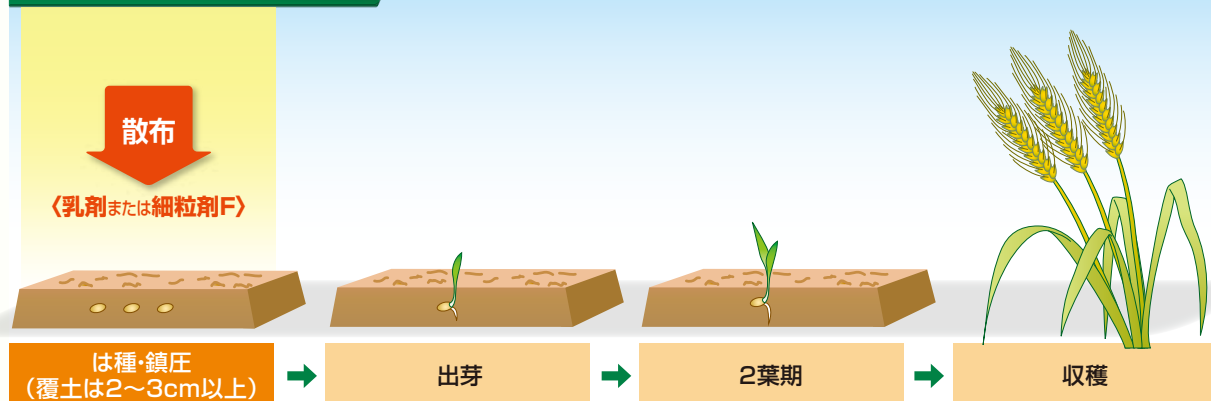
1. 後作物に対する影響を調べるため、薬剤を処理し、各月別に耕起した後、移植あるいは種し、その後の影響を検討。
2. 処理後1ヶ月以内に後作物の移植あるいは種の試験例はありません。

- 安全を確認
- 葉害の恐れあり
- 試験例なし

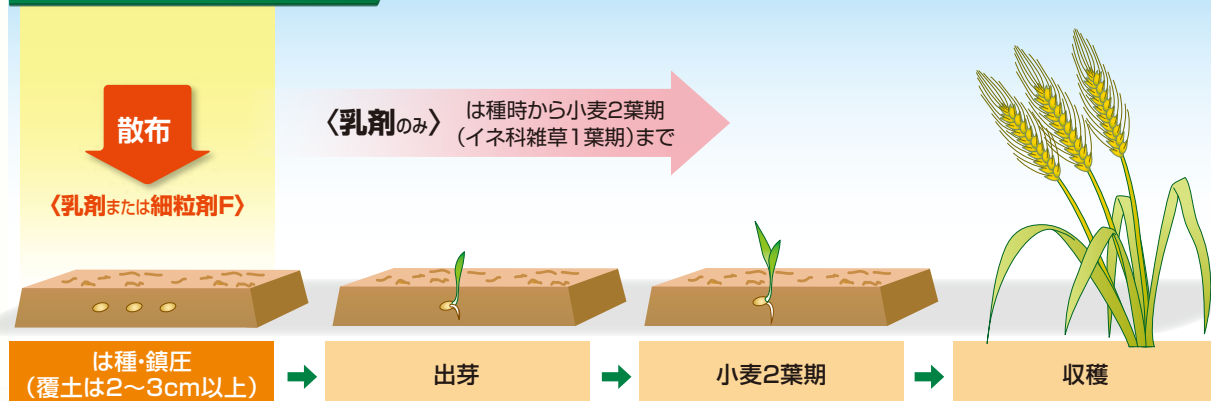
※ソルガム、てんさいを後作物として栽培する場合は、十分な期間(6ヶ月～1年)をあけてください。

主な作物の散布目安

麦類



小麦



使い方のポイント

- 砕土・整地をていねいにし、薬害発生を避けるため、覆土は2~3cm以上にしてください。
- 効果低下や薬害発生の原因になるので、排水不良田(畑)での処理は避けてください。

ジジガン乳剤

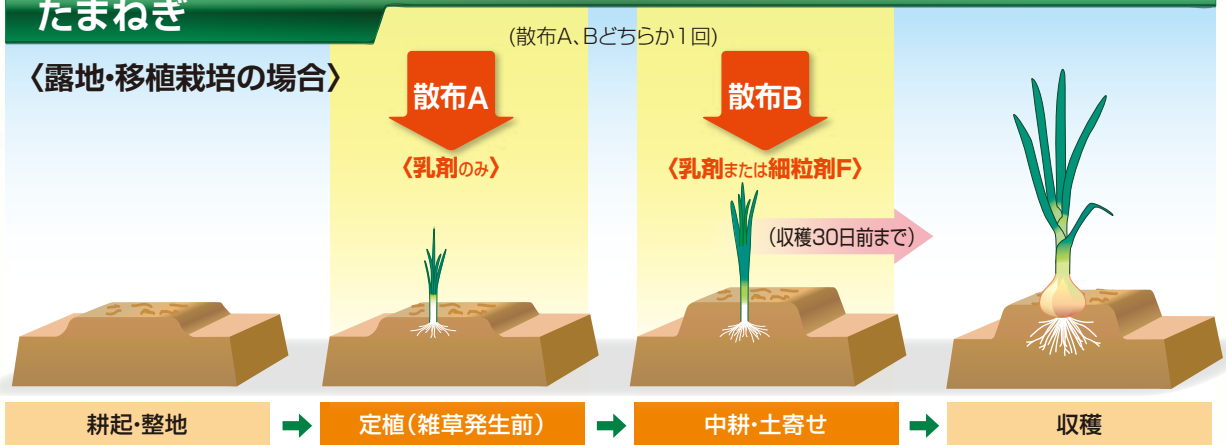
作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
麦類 (小麦を除く)	一年生雑草	は種後出芽前 (雑草発生前)	300~500ml	70~150ℓ	1回	全面土壌散布	1回
小麦		は種後(雑草発生前)~ 小麦2葉期 (イネ科雑草1葉期まで)				70~100ℓ	

ジジガン細粒剤F

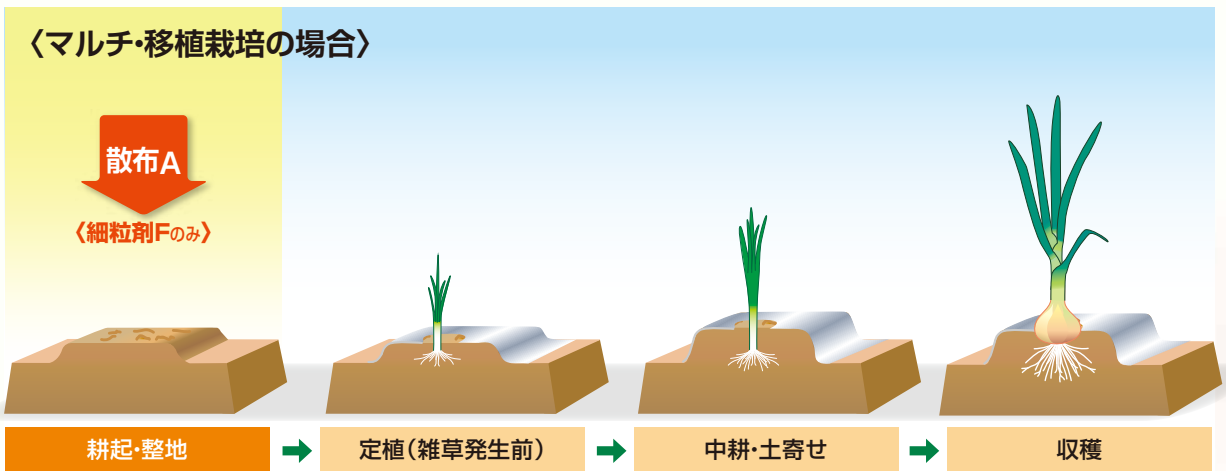
作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
麦類	一年生雑草	は種後出芽前 (雑草発生前)	砂壤土~ 埴土	5~6kg	1回	全面土壌散布	全域	1回

たまねぎ

〈露地・移植栽培の場合〉



〈マルチ・移植栽培の場合〉



ゴゴサン乳剤

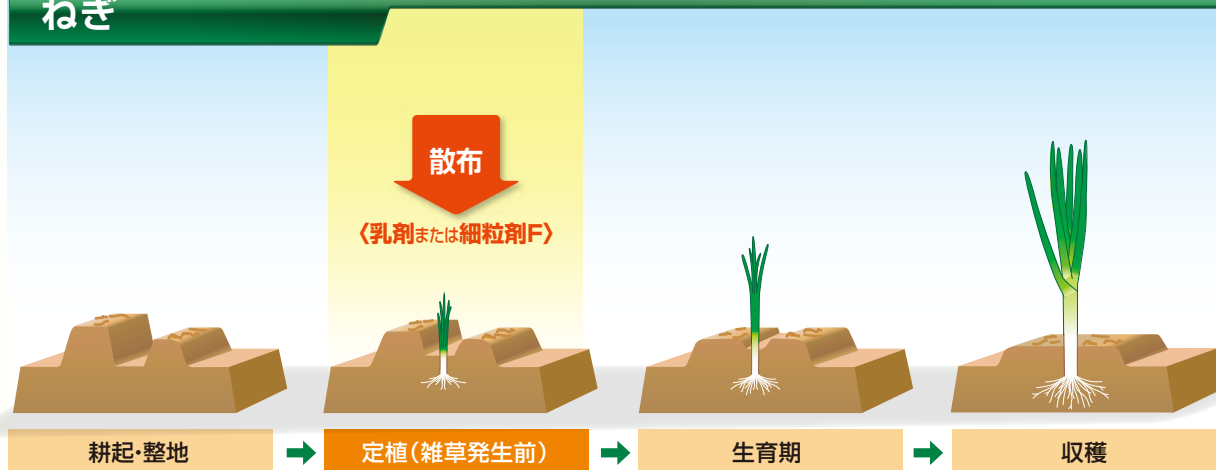
作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当たり使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンディメタリンを含む農業の総使用回数
			薬量	希釈水量			
たまねぎ (直播栽培)	一年生雑草	は種後～本葉2葉期 (雑草発生前)	200～400mℓ	70～100ℓ	1回	全面土壌散布	1回
たまねぎ (移植栽培)		定植前(雑草発生前) 定植後(雑草発生前) 但し、収穫30日前まで	300～500mℓ	70～150ℓ			

ゴゴサン細粒剤F

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法	適用地帯	ベンディメタリン を含む農業の 総使用回数
たまねぎ (春播栽培)	一年生雑草	定植後(雑草発生前) 但し、収穫30日前まで	砂壤土～ 埴土	5～6kg	1回	全面土壌散布	全域	1回
たまねぎ (秋播栽培)		定植後又は生育期(雑草発生前) 但し、収穫30日前まで						
たまねぎ (秋播マルチ栽培)		定植前(マルチ前)	全土壌					

主な作物の散布目安

ねぎ



アトサン乳剤

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
ねぎ	一年生雑草	定植後(雑草発生前)但し、定植10日後まで	200~300ml	70~100ℓ	1回	全面土壌散布	1回

アトサン細粒剤F

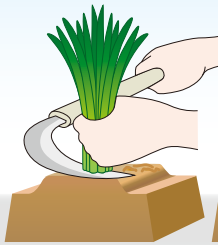
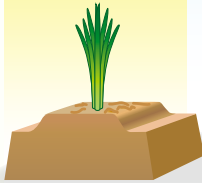
作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
ねぎ	一年生雑草	定植後(雑草発生前)但し、定植10日後まで	全土壌	4~6kg	1回	全面土壌散布	全域	1回

にら

(全面土壌散布は
定植後1回)

散布A

〈乳剤のみ〉

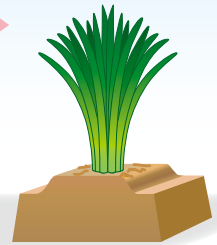


〈乳剤のみ〉

散布B

畦間土壌散布

(収穫30日前まで)



定植(雑草発生前)

収穫

捨て刈り

生育期(刈取り後)

収穫

アトサン乳剤

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の 使用回数	使用方法	ベンディメタリン を含む農薬の 総使用回数
			薬量	希釈水量			
にら	一年生雑草	定植後 (雑草発生前) 但し、定植10日後まで	200~300ml	100ℓ	1回	全面土壌散布	1回
		収穫30日前まで (雑草発生前)				畦間土壌散布*	

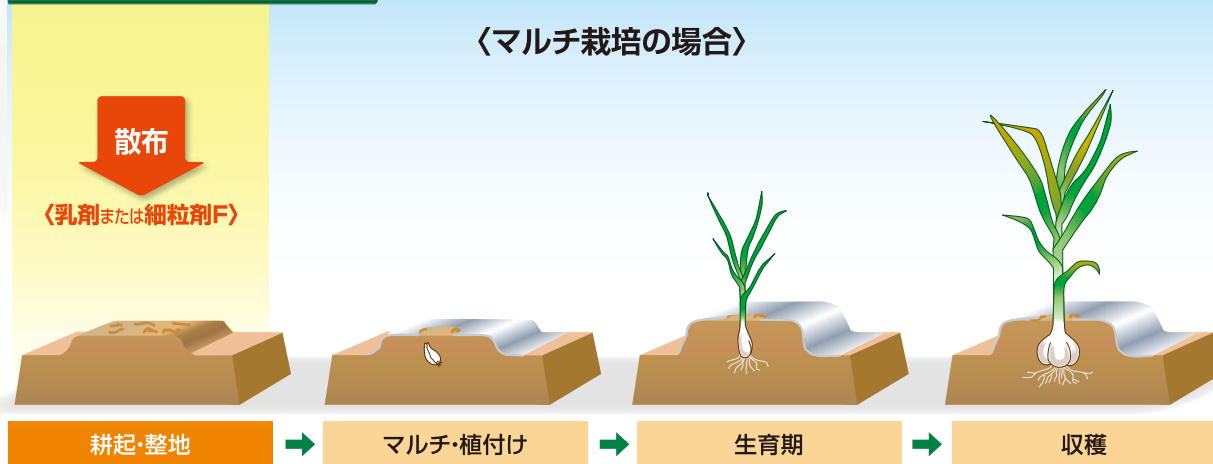
※定植後は定植10日後までに1回散布。

※畦間散布は刈取り・収穫後、次回の収穫30日前までに1回散布でき、以降同様に収穫30日前までに各1回散布できます。

*畦間土壌散布を行う場合は、飛散防止カバーを使用して作物にかからないよう散布してください。

主な作物の散布目安

にんにく

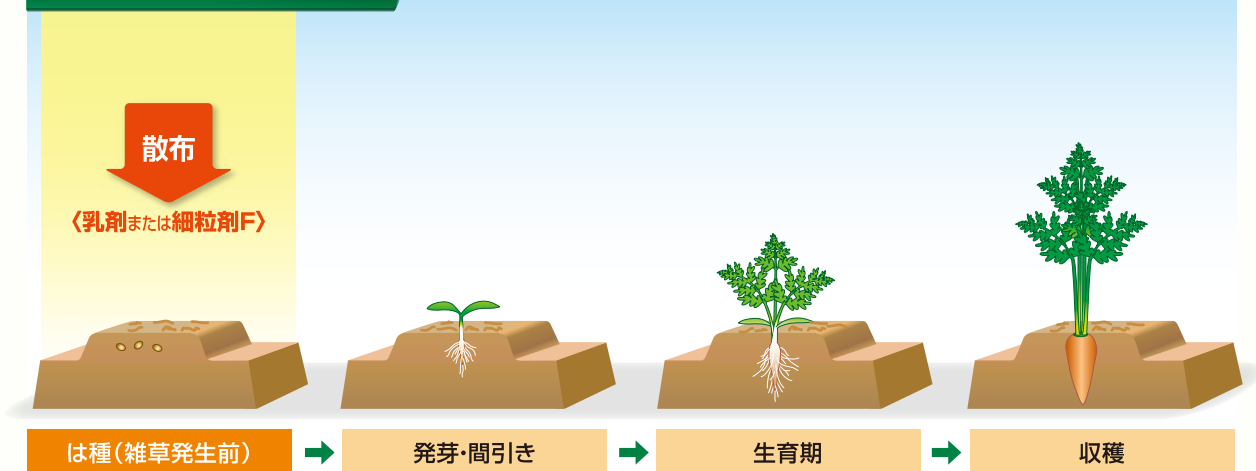


アブサン乳剤

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
にんにく	一年生雑草	植付前 (マルチ前)	300~500ml	70~150ℓ	1回	全面土壌散布	1回
		植付後(雑草発生前) 但し、収穫60日前まで		70~100ℓ			

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
にんにく	一年生雑草	植付前 (マルチ前) 植付後(雑草発生前) 但し、収穫60日前まで	砂壤土~ 埴土	4~6kg	1回	全面土壌散布	全域	1回

にんじん



ジジサン乳剤

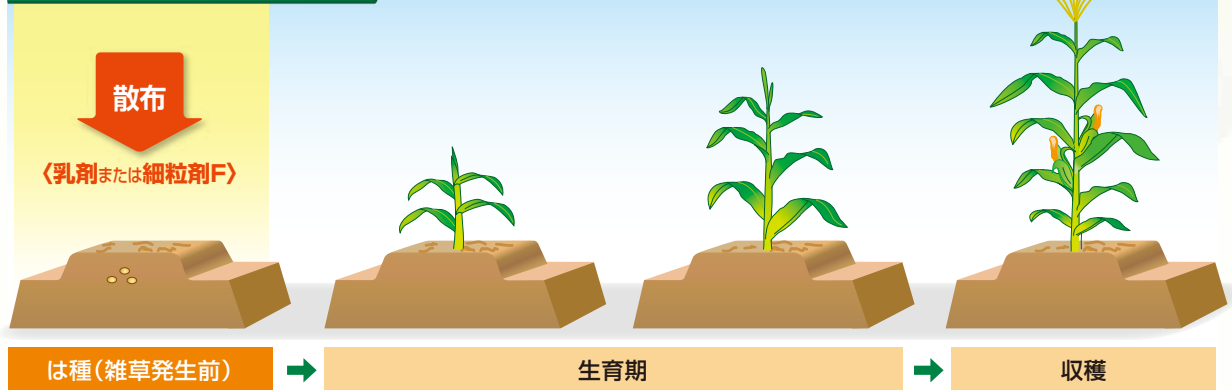
作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
にんじん	一年生雑草	は種後出芽前 (雑草発生前)	200~400ml	70~150ℓ	1回	全面土壌散布	1回

ジジサン細粒剤F

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
にんじん	一年生雑草	は種後出芽前 (雑草発生前)	砂壤土~ 埴土	4~5kg	1回	全面土壌散布	全域	1回

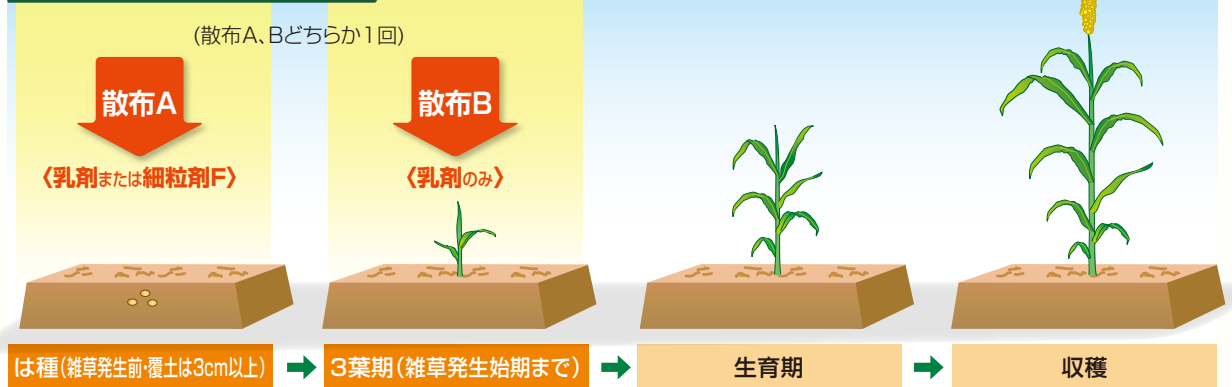
主な作物の散布目安

とうもろこし



※マルチ栽培のとうもろこしは葉害が生じる恐れがあるので使用は避けてください。

ソルガム



※は種深度は薬剤処理時に3cm以上になるようにしてください。

※スーダングラスでの使用は避けてください。スーダン型、ソルゴー型、兼用型、子実型に使用してください。

※メヒシバ優先圃場では、メヒシバ1葉期までに処理してください。

使い方のポイント

■ 砕土・整地はていねいにし、葉害を避けるため、覆土を十分にしてください。

フーサン乳剤

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
とうもろこし 飼料用とうもろこし ヤングコーン	一年生雑草	は種後出芽前 (雑草発生前)	200~400mℓ	70~150ℓ	1回	全面土壌散布	1回
ソルガム			300~400mℓ			雑草莖葉散布 又は 全面土壌散布	
		ソルガム3葉期 (雑草発生前 ~発生始期)	300mℓ	70~100ℓ			

フーサン細粒剤F

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
とうもろこし 飼料用とうもろこし ヤングコーン	一年生雑草	は種後出芽前 (雑草発生前)	砂壤土~ 埴土	5~6kg	1回	全面土壌散布	全域	1回
ソルガム			全土壌					
			砂壤土~ 埴土	4~6kg				

キャベツ

(細粒剤Fは散布A、Bどちらか1回)



- ※乳剤は薬害を避けるため、定植後の使用は避けてください。
- ※細粒剤Fを定植後に使用する場合、薬剤が苗に付着しないよう露のない時期に使用してください。
- ※薬剤処理後2～3日間は多量の灌水をしないでください。
- ※セル成型苗(プラグ苗)では薬害発生の恐れがあるので、使用を避けてください。

ジジサン乳剤

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
キャベツ	一年生雑草	定植前 (雑草発生前)	200～400ml	70～150ℓ	1回	全面土壌散布	1回

ジジサン細粒剤F

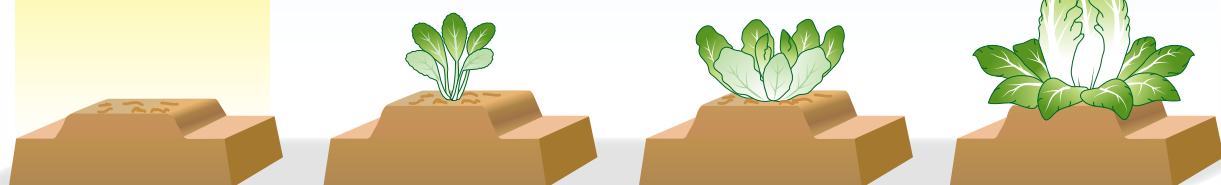
作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
キャベツ	一年生雑草	定植前又は 定植後～定植翌日 (雑草発生前)	砂壤土～ 埴土	4～5kg	1回	全面土壌散布	全域	1回

主な作物の散布目安

はくさい

散布

〈乳剤または細粒剤F〉



畦立て・整地

定植

生育期

収穫

※薬害を避けるため、定植後の使用は避けてください。

※乳剤の場合は、セル成型苗(プラグ苗)では薬害発生の恐れがあるので、使用を避けて下さい。

※細粒剤Fを使用する場合、極端な浅植え、深植え定植したセル成型苗(プラグ苗)には薬害発生の恐れがあるので注意して下さい。

ゴゴサン乳剤

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンディメタリンを含む農業の総使用回数
			薬量	希釈水量			
はくさい	一年生雑草	定植前 (雑草発生前)	200~300mℓ	70~150ℓ	1回	全面土壌散布	1回

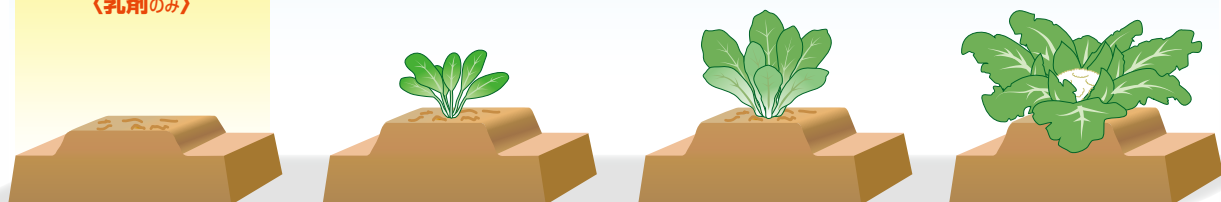
ゴゴサン細粒剤F

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ベンディメタリンを含む農業の総使用回数
はくさい	一年生雑草	定植前 (雑草発生前)	全土壌	4~6kg	1回	全面土壌散布	全域	1回

カリフラワー

散布

〈乳剤のみ〉



畦立て・整地

定植

生育期

収穫

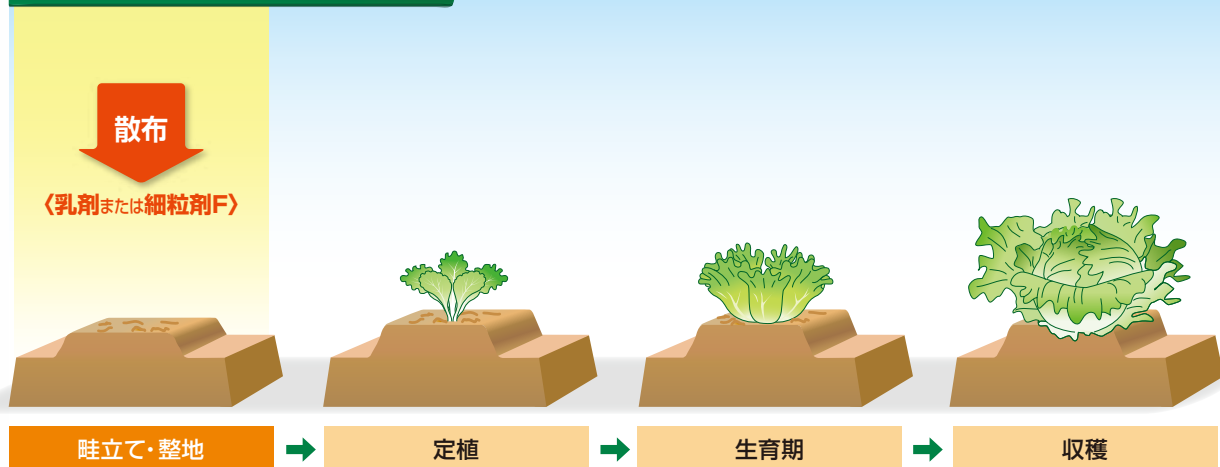
※薬害を避けるため、定植後の使用は避けてください。

ゴゴサン乳剤

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンディメタリンを含む農業の総使用回数
			薬量	希釈水量			
カリフラワー	一年生雑草	定植前 (雑草発生前)	200~400mℓ	70~150ℓ	1回	全面土壌散布	1回

主な作物の散布目安

レタス・非結球レタス



※薬害を避けるため、定植後の使用は避けてください。

※5葉期以上に生育した苗を移植してください。

※非結球レタスでは新品種の使用にあたっては事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。

※乳剤の場合は、セル成型苗(プラグ苗)では薬害発生の恐れがあるので、使用を避けて下さい。

※細粒剤Fを使用する場合、極端な浅植え、深植え定植したセル成型苗(プラグ苗)には薬害発生の恐れがあるので注意して下さい。

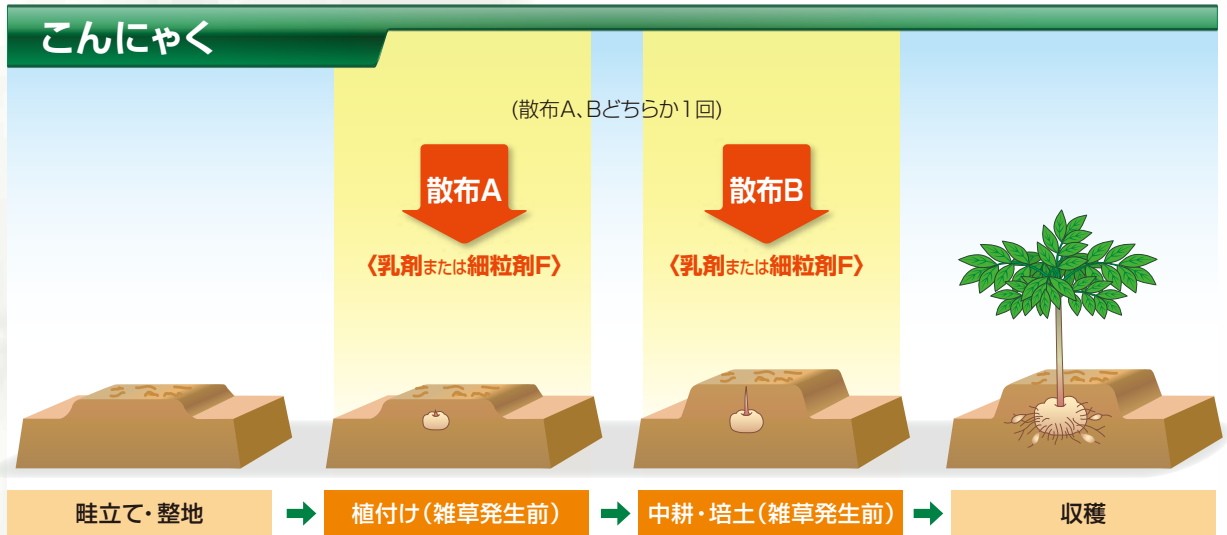
ジジガン乳剤

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンディメタリンを含む農業の総使用回数
			薬量	希釈水量			
レタス 非結球レタス	一年生雑草	定植前 (雑草発生前)	200~400ml	70~150ℓ	1回	全面土壌散布	1回

ジジガン細粒剤F

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ベンディメタリンを含む農業の総使用回数
レタス 非結球レタス	一年生雑草	定植前 (雑草発生前)	全土壌	4~6kg	1回	全面土壌散布	全域	1回

こんにゃく



※萌芽後は使用を避けてください。

ゴゴサン乳剤

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当たり使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
こんにゃく	一年生雑草	植付後又は培土後(雑草発生前) 但し、植付30日後まで	200~300ml	70~100ℓ	1回	全面土壌散布	1回

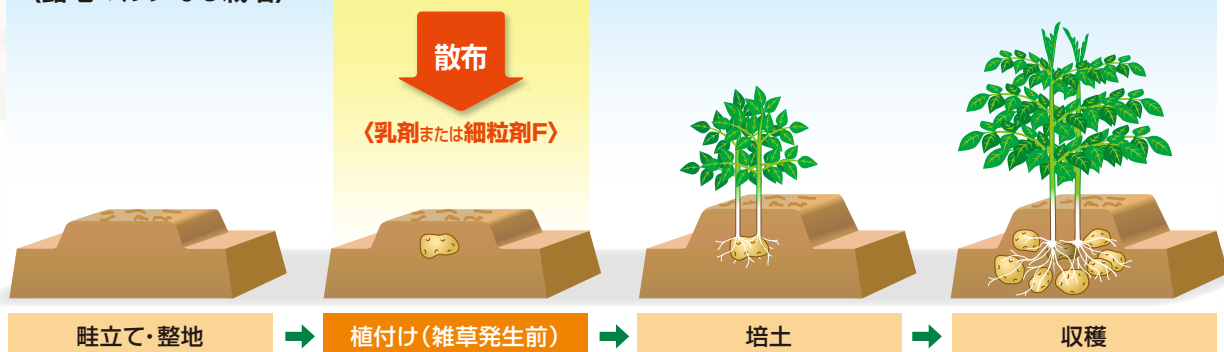
ゴゴサン細粒剤F

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当たり使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
こんにゃく	一年生雑草	植付後又は培土後(雑草発生前) 但し、植付30日後まで	全土壌	5~6kg	1回	全面土壌散布	全域 (北海道、九州を除く)	1回

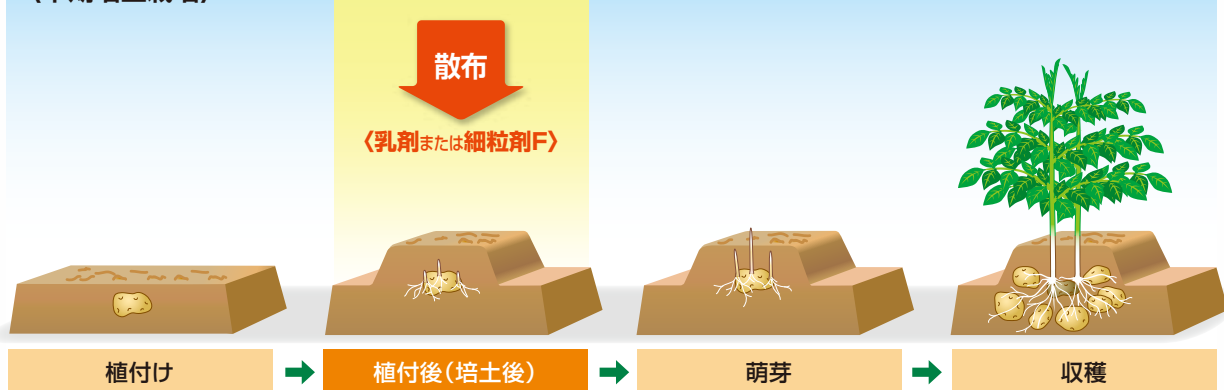
主な作物の散布目安

ばれいしょ

〈露地マルチなし栽培〉



〈早期培土栽培〉



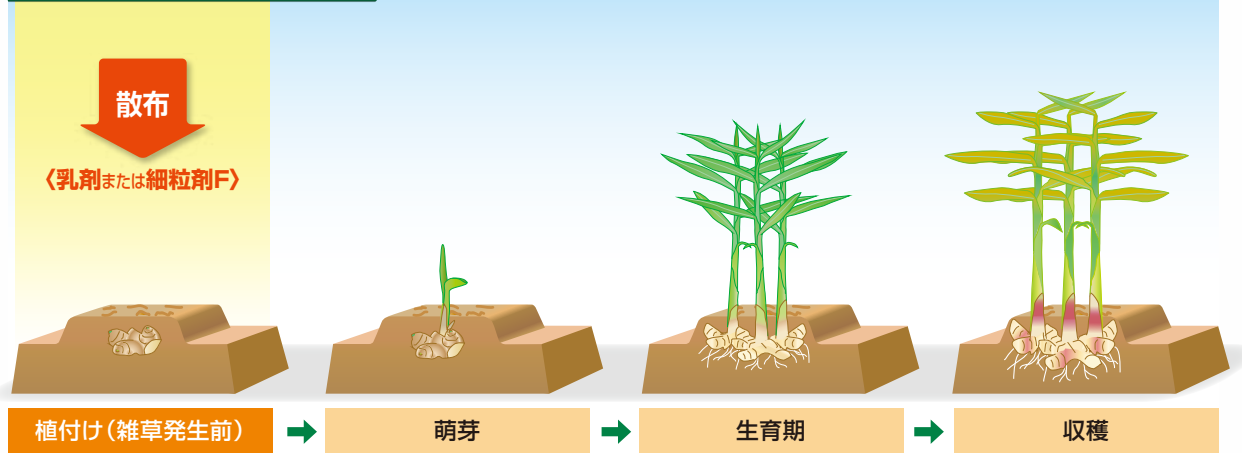
ゴゴサン乳剤

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
ばれいしょ	一年生雑草	植付け後萌芽前 (雑草発生前)	200~300ml	70~100ℓ	1回	全面土壌散布	1回

ゴゴサン細粒剤F

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ (マルチ栽培を除く)	一年生雑草	植付け後萌芽前 (雑草発生前)	砂壤土~ 埴土	4~6kg	1回	全面土壌散布	全域 (北海道を除く)	1回
ばれいしょ (マルチ栽培)		植付け後マルチ前 但し、萌芽前まで (雑草発生前)						

しょうが



ジーザン乳剤

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
しょうが	一年生雑草	植付後萌芽前 (雑草発生前)	200~400ml	70~150ℓ	1回	全面土壌散布	1回

ジーザン細粒剤F

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り使用量		本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量				
しょうが	一年生雑草	植付後萌芽前 (雑草発生前)	全土壌	4~6kg		1回	全面土壌散布	全域	1回

主な作物の散布目安

さといも



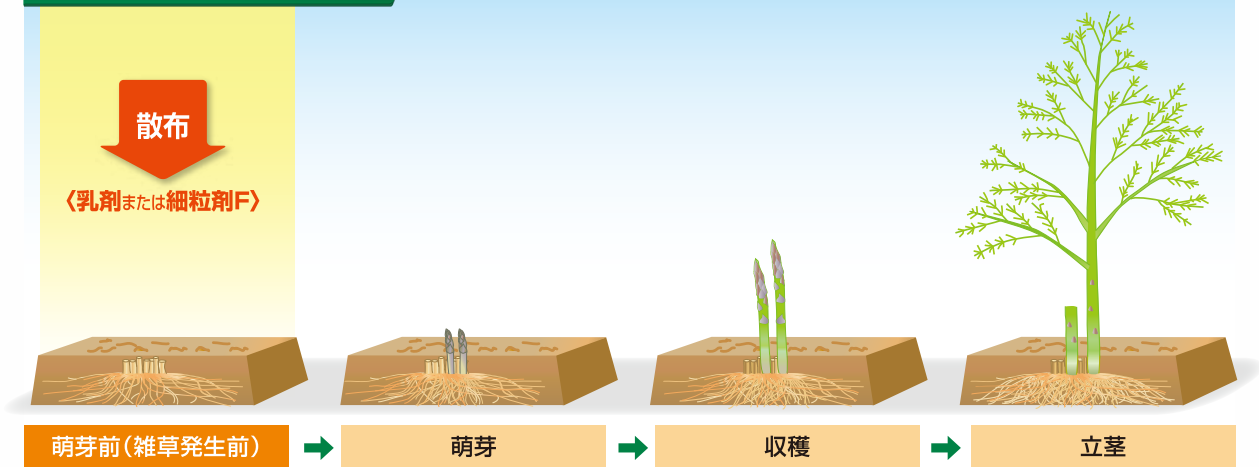
アゴサン 乳剤

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
さといも	一年生雑草	植付後萌芽前 (雑草発生前)	200~400ml	70~100ℓ	1回	全面土壌散布	2回以内 (土寄せ後の 処理は1回以内)
		土寄せ後(雑草発生前) 但し、収穫60日前まで		100ℓ			

アゴサン 細粒剤F

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
さといも	一年生雑草	植付前 (雑草発生前)	全土壌	4~6kg	1回	全面土壌散布	全域	2回以内 (土寄せ後の 処理は 1回以内)
		植付後萌芽前 (雑草発生前)	砂壤土~ 壤土				全域 (北海道を 除く)	
		土寄せ後(雑草発生前) 但し、収穫60日前まで						

アスパラガス



ゴッガン乳剤

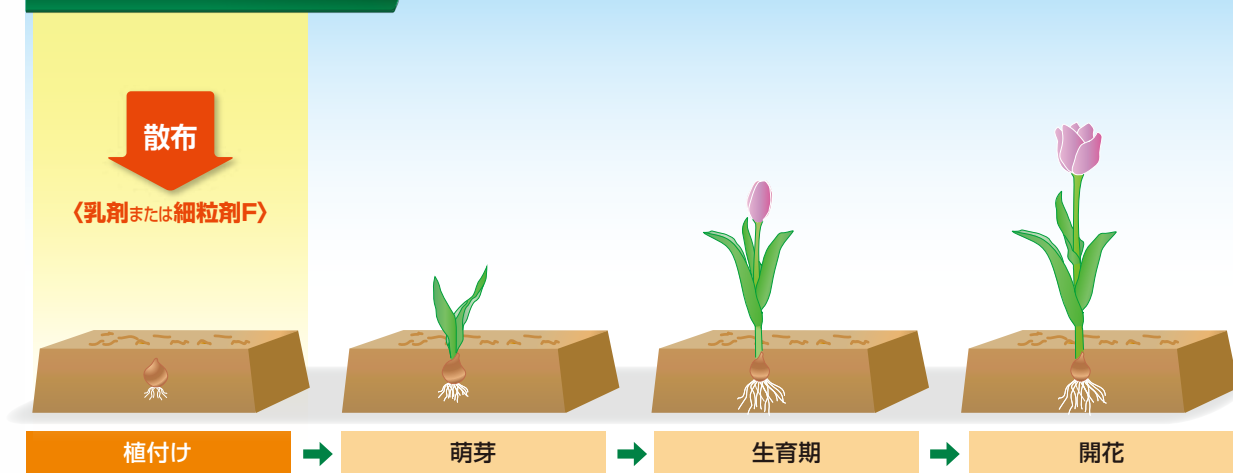
作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
アスパラガス	一年生雑草	萌芽前 (雑草発生前)	200~400ml	70~150ℓ	1回	全面土壌散布	1回

ゴッガン細粒剤F

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
アスパラガス	一年生雑草	萌芽前 (雑草発生前)	全土壌	4~6kg	1回	全面土壌散布	全域	1回

主な作物の散布目安

チューリップ



ジジガン乳剤

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
チューリップ	一年生雑草	植付後萌芽前 (雑草発生前)	300~500ml	70~150ℓ	1回	全面土壌散布	1回

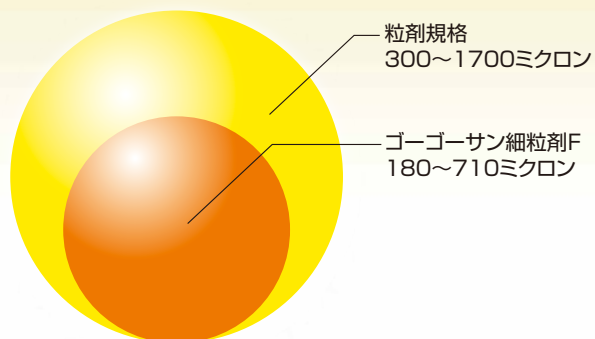
ジジガン細粒剤F

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
チューリップ	一年生雑草	植付後萌芽前 (雑草発生前)	砂壤土~ 壤土	4~6kg	1回	全面土壌散布	全域	1回

細粒剤F散布

細粒剤Fの特長

細粒剤Fは細粒剤化したことにより粒数が増し、かつ分散性が高まり、均一に散布できます。
また、見かけ比重を大きくしているため、風に対する影響を受けにくく、日を選ばずに散布できます。



〈風洞実験による比較〉



は種時同時処理専用機器

は種機に専用アタッチメントを付けることで、は種と施肥が同時にできます。
※使用にあたっては、各機器の取り扱いに準じてください。



ゴーゴーサン乳剤試験事例



小麦



平成17年 日本植物調節剤研究協会・研究所

	残草量(生重g/m ²)	薬害
ゴーゴーサン乳剤 300ml/10a	0.02(ハコベ)	なし
ゴーゴーサン乳剤 500ml/10a	0	なし
無処理		—

品 種:農林61号
 は 種 日:11月17日
 覆 土 深:約4cm
 散 布 日:11月17日
 (は種後、雑草発生前)
 散布水量:100ℓ/10a
 調 査 日:平成18年4月4日
 土 性:砂質・埴壤土

■ スズメノテッポウ
 ■ ホトケノザ
 ■ ハコベ

たまねぎ



平成18年 日本植物調節剤研究協会・研究所

	残草量(生重g/m ²)	薬害
ゴーゴーサン乳剤 300ml/10a	1	なし
ゴーゴーサン乳剤 500ml/10a	1	なし
無処理		—

品 種:奥州玉葱(露地栽培)
 は 種 日:11月11日
 散 布 日:11月13日(雑草発生前)
 散布水量:100ℓ/10a
 調 査 日:平成19年1月5日
 土 性:洪積・壤土

■ スズメノカタビラ ■ ウシハコベ
 ■ スズメノテッポウ ■ ノミノフスマ
 ■ ホトケノザ ■ タネツケバナ

にんじん



平成18年 日本植物調節剤研究協会・研究所

	残草量(生重g/m ²)	薬害
ゴーゴーサン乳剤 200ml/10a	1(メヒシバ) 2(スカシタゴボウ)	なし
ゴーゴーサン乳剤 400ml/10a	1(スカシタゴボウ)	なし
無処理		—

品 種:向陽二号
 (春まき露地栽培)
 は 種 日:5月15日
 散 布 日:5月15日
 (は種後、雑草発生前)
 散布水量:100ℓ/10a
 調 査 日:6月19日
 土 性:洪積・壤土

■ イヌビエ ■ ホソアオゲイトウ
 ■ メヒシバ ■ スカシタゴボウ
 ■ ハルタデ

にんにく



平成19年 日本植物調節剤研究協会・研究所

	残草量(生重g/m ²)	薬害
ゴーゴーサン乳剤 500ml/10a	1	なし
無処理		—

品 種:ホワイト六片
 (露地マルチ栽培)
 は 種 日:11月13日
 散 布 日:11月13日
 (植付後、雑草発生前)
 散布水量:100ℓ/10a
 調 査 日:平成20年1月17日
 土 性:砂質・埴壤土

■ スズメノテッポウ ■ ナズナ
 ■ オオイヌノフグリ ■ ホトケノザ
 ■ オランダミミナグサ

ゴーゴーサン細粒剤F試験事例



小麦



平成4年 日本植物調節剤研究協会・研究所

	残草量(生重g/m ²)	薬害
ゴーゴーサン細粒剤F 5kg/10a	0	なし
無処理		—

品 種 : 日:11月10日
 は 種 日:11月10日
 散 布 日:11月10日
 (は種後、雑草発生前)
 調 査 日:平成5年3月17日

■ スズメノカタビラ ■ ナズナ
 ■ スズメノテッポウ ■ ホトケノザ
 ■ ハコベ

たまねぎ



平成19年 佐賀県農業試験研究センター白石分場

	残草量(生重g/m ²)	薬害
ゴーゴーサン細粒剤F 6kg/10a	0	なし
無処理		—

品 種 : アドバンス
 は 種 日:11月22日
 散 布 日:11月22日
 (定植前マルチ前、
 雑草発生前)
 調 査 日:平成20年1月17日
 土 性 : 植壤土

■ スズメノテッポウ ■ ナズナ
 ■ スズメノカタビラ ■ ホトケノザ
 ■ タネツケバナ

ねぎ



平成元年 京都府農業総合研究所

	残草量(本数/m ²)	薬害
ゴーゴーサン細粒剤F 4kg/10a	0.8(アオビユ) 10.4	なし
ゴーゴーサン細粒剤F 5kg/10a	0.8(メヒシバ) 10.4	なし
ゴーゴーサン細粒剤F 6kg/10a	10.4 0.8(メヒシバ) 0.8(アオビユ)	なし
A粒剤 5kg/10a	31.2	なし
無処理		—

品 種 : 九条太
 は 種 日:3月2日
 定 植 日:5月18日
 散 布 日:6月1日
 (雑草発生前)
 調 査 日:7月11日
 土 性 : 新洪積・壤土

■ メヒシバ ■ イヌビユ
 ■ カヤツリグサ ■ スベリヒユ
 ■ アオビユ ■ ノボロギク

にんにく



平成7年 青森県畑作園芸試験場

	残草量(本数/m ²)	薬害
ゴーゴーサン細粒剤F 6kg/10a	1.8 7.8	なし
無処理		—

品 種 : 福地ホワイト
 (露地マルチ栽培)
 植 付 日:10月6日
 (露地マルチ栽培)
 散 布 日:10月6日
 (植付後、雑草発生前)
 調 査 日:11月22日
 土 性 : 黒ボク・壤土

■ スズメノカタビラ ■ スベリヒユ
 ■ ハコベ
 ■ シロザ

ゴーゴーサン乳剤登録内容



適用作物と使用方法

作物名	適用 雑草名	使用時期	10アール当たり使用量		本剤の 使用回数	使用方法	ベンデメタリンを含む 農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
はくさい	一年生 雑草	定植前(雑草発生前)	200~300mℓ	70~150ℓ	1回	全面 土壌散布	1回
キャベツ、カリフラワー レタス、非結球レタス		200~400mℓ					
うど		400mℓ	定植後萌芽前(根株養成圃)(雑草発生前)	100ℓ			
			生育期(根株養成圃)(雑草発生前) 但し収穫60日前まで				
たまねぎ(直播栽培)		は種後~本葉2葉期(雑草発生前)	200~400mℓ	70~100ℓ			
たまねぎ(移植栽培)		定植前(雑草発生前)	300~500mℓ	70~150ℓ			
葉たまねぎ		定植後(雑草発生前)但し収穫30日前まで					
らっきょう		定植前(雑草発生前)					
ねぎ		植付後萌芽前(雑草発生前)	200~300mℓ	70~100ℓ			
		定植後(雑草発生前)但し定植10日後まで					
にら		収穫30日前まで(雑草発生前)	100ℓ	全面 土壌散布		1回	
にんにく		植付前(マルチ前)	300~500mℓ	70~150ℓ			
		植付後(雑草発生前)但し収穫60日前まで	70~100ℓ	全面 土壌散布		1回	
葉にんにく(マルチ栽培)		植付前(マルチ前)	400~500mℓ				
		植付前	300~400mℓ	70~150ℓ			
葉にんにく (マルチ栽培を除く)		植付後(雑草発生前)但し収穫60日前まで					
かんしょ		挿苗10日後まで(雑草発生前)	100ℓ	全面 土壌散布		1回	
さといも		植付後萌芽前(雑草発生前)	200~400mℓ	70~100ℓ			
		土寄せ後(雑草発生前)但し収穫60日前まで	100ℓ	全面 土壌散布		2回以内 (土寄せ後の処理 は1回以内)	
ばれいしょ							
やまのいも		植付後萌芽前(雑草発生前)	200~300mℓ	70~100ℓ			
しょうが			200~400mℓ	100ℓ			
			200~400mℓ	70~150ℓ			
こんにゃく		植付後又は培土後(雑草発生前) 但し植付30日後まで	200~300mℓ	70~100ℓ			
らっかせい		は種後出芽前(雑草発生前)	200~400mℓ	70~150ℓ			
にんじん、とうもろこし 飼料用とうもろこし ヤングコーン							
陸稲							
麦類(小麦を除く)							
小麦		は種後(雑草発生前)~ 小麦2葉期(イネ科雑草1葉期まで)	300~500mℓ	70~100ℓ			
ソルガム		ソルガム3葉期(雑草発生前~発生初期)	300mℓ	全面 土壌散布		1回	
		は種後出芽前(雑草発生前)	300~400mℓ				
アスパラガス		萌芽前(雑草発生前)	200~400mℓ	70~150ℓ		全面 土壌散布	
ふき(春どり露地栽培)		春期収穫直後から萌芽前まで(雑草発生前)	400mℓ				
ふき(ふきのとう)		春期ふき収穫直後から萌芽前まで (雑草発生前)					
とりかぶと(薬用)		生育期(雑草発生前)但し収穫90日前まで	300~500mℓ	100ℓ			
食用ぎく		定植前(雑草発生前)	200~400mℓ	70~150ℓ			
きく		定植後(雑草発生前)					
りんどう		萌芽前(雑草発生前)					
チューリップ	植付後萌芽前(雑草発生前)	300~500mℓ	全面 土壌散布	2回以内			
桑	春期発芽前又は夏切後(雑草発生前)	300~400mℓ			100~200ℓ		
おけら	収穫60日前まで(雑草発生前)	200~300mℓ	70~150ℓ	3回以内 (1年間に 1回以内)			
すぎ(床替床) ひのき(床替床)	床替後(雑草発生前)	400~500mℓ	100~200ℓ	1回			
せんきゅう	萌芽後(雑草発生前)但し収穫120日前まで	300mℓ	100ℓ				
みしまさいこ、とうすげぼうふう びやくし	は種後出芽前(雑草発生前)		70~150ℓ	1回			
とうき、いんちんこう	定植後(雑草発生前)但し収穫120日前まで	100ℓ					

効果・薬害等の注意事項

使用上の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 本剤は雑草の発生前～発芽時に有効ですが、雑草の生育が進むと急激に効果が低下するので、使用時期を失しないように散布してください。
- 本剤はイネ科および広葉の一年生雑草に効果がありますが、キク科雑草とツユクサには効果が劣るので、これらの雑草の優占圃場では使用しないでください。
- 土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、希釈水量を多めにするかまたは降雨後に散布してください。
- 砕土、整地はていねいに行い、種子が露出しないように覆土はできるだけいねいに行ってください。
- 砂土では使用しないでください。
- はげしい降雨が予想される時には使用をさけてください。
- 散布にあたっては、他作物に飛散しないよう十分注意して使用してください。
- 水田裏作の麦に使用する場合、排水不良の畑では使用をさけてください。
- ソルガムに使用する場合、覆土深は3cm以上としてください。また散播では使用しないでください。
- 薬にはかからないように注意してください。
- キャベツ、はくさい、レタスおよび非結球レタスのセル成型苗には薬害が発生するおそれがあるので使用をさけてください。
- 本剤はマルチ栽培のとうもろこしに薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- うどおよびにらで畦間土壌散布を行う場合、飛散防止カバーを使用して作物にかからないように散布してください。
- かんしよで畦間土壌散布を行う場合、薬液が作物に飛散すると葉の奇形症状の薬害を生じるおそれがあるので、作物に飛散しないように注意してください。
- たまねぎの直播栽培では薬害を生じるおそれがあるので、初めて使用する場合は事前に薬害の有無を十分に確認してから使用することとし、は種深度は2cm以上としてください。
- たまねぎの秋播の直播栽培では、処理後に低温が続く条件では生育抑制等の薬害を生じるおそれがあるので、たまねぎの1～2葉期に使用してください。
- さくこの品種、栽培条件などによっては黄化、抑制等の薬害を生じるおそれがあるので、本剤を初めて使用する場合は、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
- 本剤は自動車や壁などの塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意してください。
- 本剤は衣服（白衣）などに散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意してください。
- 本剤の使用にあたっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の指導を受けさせてください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の指導を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 散布液調製時および散布の際は農業用マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗顔・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

水産動植物への注意

- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

取扱い上の注意

- 危険物第4類第2石油類に属するので火気には十分注意してください。

貯蔵上の注意

- 火気をさけ、食品と区別して、直射日光の当たらない冷涼な場所に密栓して保管してください。

ゴーゴーサン細粒剤F登録内容



適用作物と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り 使用量	本剤の 使用回数	使用 方法	適用地帯	ベンディメタリン を含む農薬の 総使用回数
麦類 とうもろこし 飼料用とうもろこし	一年生 雑草	は種後出芽前(雑草発生前)	砂壤土～埴土	5～6kg	1回	全面 土壌 散布	全 域	1回
ヤングコーン			全土壌					
陸稲 ソルガム			砂壤土～埴土	4～6kg				
にんじん			砂壤土～埴土	4～5kg				
らっかせい			砂壤土～埴土	5kg				
さといも		植付前(雑草発生前)	全土壌	4～6kg			2回以内 (土寄せ後の 処理は1回以内)	
		植付後萌芽前(雑草発生前)	砂壤土～埴土					
		土寄せ後(雑草発生前) 但し、収穫60日前まで						
ばれいしょ (マルチ栽培を除く)		植付後萌芽前(雑草発生前)	砂壤土～埴土	4～5kg			全域 (北海道を除く)	
ばれいしょ (マルチ栽培)		植付後マルチ前、 但し、萌芽前まで(雑草発生前)						
キャベツ		定植前または 定植後～定植翌日(雑草発生前)	全土壌	4～5kg			全域	
はくさい レタス 非結球レタス		定植前(雑草発生前)	全土壌	4～6kg				
アスパラガス		萌芽前(雑草発生前)	砂壤土～埴土					
にんにく 葉にんにく		植付前(マルチ前)		砂壤土～埴土				5～6kg
		たまねぎ (春播栽培)	植付後(雑草発生前) 但し、収穫60日前まで					
たまねぎ (秋播栽培)		定植後(雑草発生前) 但し、収穫30日前まで	砂壤土～埴土	5～6kg				
たまねぎ (秋播マルチ栽培)		定植後または生育期(雑草発生前) 但し、収穫30日前まで	全土壌					
葉たまねぎ		定植前(マルチ前)	砂壤土～埴土	4～6kg				
ねぎ		定植後(雑草発生前) 但し、定植10日後まで	全土壌					
こんにゃく		植付後または培土後(雑草発生前) 但し、植付30日後まで		全土壌				5～6kg
桑	春期発芽前または夏切後(雑草発生前)	全土壌	5kg	2回以内				
パセリ	は種後出芽前(雑草発生前)	全土壌	5kg	1回				
みしまさいこ	は種後～発芽期または萌芽期 (雑草発生前始期まで)	壤土～埴壤土	3～5kg					
チューリップ	植付後萌芽前(雑草発生前)	砂壤土～埴土	4～6kg					
つつじ類	生育期(雑草発生前)	全土壌						
きく	定植後(雑草発生前)		4kg					
しょうが	植付後萌芽前(雑草発生前)	畑苗床での定植後(雑草発生前) (入水15日前まで)						
いぐさ	畑苗床での定植後(雑草発生前) (入水15日前まで)		全土壌					

効果・薬害等の注意事項

使用上の注意

- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
- 本剤は雑草の発生前～発芽時に有効ですが、雑草の生育が進むと急激に効果が低下するので、使用時期を失しないように散布してください。
- 本剤はイネ科および広葉の一年生雑草に効果がありますが、キク科雑草とツクサには効果が劣るので、これらの雑草の優占圃場では使用しないでください。
- 土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、土壌が適度の水分を含んでいる時に散布してください。
- 砕土、整地はていねいに行い、は種後に使用する場合は、種子が露出しないように覆土はできるだけていねいに行い、覆土深を2～3cm以上としてください。
- はげしい降雨が予想される時には使用をさけてください。またキャベツに使用する場合、散布後2～3日間は大量の灌水はしないでください。
- キャベツのセル成型苗には薬害が発生するおそれがあるので、使用をさけてください。
- はくさい、レタスおよび非結球レタスで使用する場合、極端な浅植えや深植えに定植したセル成型苗には薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 水田裏作の麦に使用する場合、排水不良の畑では、使用をさけてください。
- ソルガムに使用する場合、覆土深は3cm以上としてください。また散播では使用しないでください。
- 本剤は、マルチ栽培のとうもろこしに薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- きくの品種、栽培条件などによっては黄化、抑制等の薬害を生じるおそれがあるので、本剤を初めて使用する場合は、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
- 重複散布すると薬害のおそれがあるので、まきムラのないように均一に散布してください。
- 本剤は衣服(白衣)などにかかると変色するおそれがあるので、かからないよう注意してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

安全使用上の注意



● 本剤は皮ふに対して弱い刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落してください。




● 散布の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。



● 街路、公園等で使用する場合は、散布中および散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

貯蔵上の注意

- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

- 
- 使用前にはラベルをよく読んでください。
 - ラベルの記載以外には使用しないでください。
 - 小児の手の届く所には置かないでください。
 - 使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。
 - 防除日誌を記帳しましょう。

BASFジャパン株式会社

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号 OVOL日本橋ビル3階
☎0120-014-660 <https://crop-protection.basf.co.jp/>

®:BASF社の登録商標

0615100 5
202107

この技術資料の記載内容は2021年7月現在のものです。